# 集団避難 動き相次ぐ

## 宮城・南三陸で説明会

## 岩手沿岸310人内陸へ

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町の「防災対策庁舎」。屋上に避難した人たちが、ヘリコプターの救助を待っていた=26日午前、東日本旅客鉄道石巻市の駅舎付近

河北新報
3月27日（日）
河北新報社
仙台市青葉区五橋1-2-28
郵便番号 980-8688
「東」は、未来
電話（022）211
読者相談室 1447
報道部1120 営業部1304
スポーツ部1130 営業部1318
夕刊編集部1146 営業管理部1312
生活文化部1132 事業部1332
総合案内（022）211-1111
ご購読申し込みは
0120-59-3746

2面 教員業務 夏休み前まで
3面 「危険な水 大きな障害」
4面 生産再開 見通せず
4面 応援メッセージ
5面 子どもの変化 見逃すな
8面 生活関連情報
10面 被災者 胸の内切々
13面 内定取り消し相次ぐ
14面 来季の酒 何としても
15面 復興にがれきの「壁」
16面

東日本大震災関連記事

東日本大震災は東北地方に深刻なダメージを与えている。大津波による高速道路の寸断や、地震発生から2週間が過ぎても、操業再開のめどが立たない企業は多い。仙台湾に面した東北一帯の工業地帯は、地震発生直後に「ものづくり」の拠点として注目を集めた。しかし、生産の復旧は思うように進まない。

### 福島第1

## 放水口海水1250倍ヨウ素

### 5基、制御室に照明

東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所（福島県大熊町）の事故は、発生から3日目の26日、原子炉の冷却に使用する海水の放水口付近の海水から、法令で定める濃度限度の1250倍の放射性ヨウ素が検出されたと発表した。これまでは、1000倍が最高だった。

2号機は同日午後、「原子炉が不安定な状態」（東京電力）になり、1、2、3、4号機の中央制御室の照明が点灯した。これで4つ目となった。1、3号機では、ディーゼル発電機が動き、復旧作業が進められていた。

全ての放水口付近の海水から、法令で定める濃度限度の1250倍の放射性ヨウ素が検出されたのは初めてで、経済産業省原子力安全・保安院は「影響は限定的」とみている。

2号機では、原子炉を冷やすための海水を注入するポンプが使用不能になるなどトラブルが続いている。作業員の被ばく量が増えるなどの影響が出ており、作業は難航している。

1号機では、原子炉を冷やすための海水を注入するポンプが使用不能になるなどトラブルが続いている。作業員の被ばく量が増えるなどの影響が出ており、作業は難航している。

3号機のタービン建屋の地下では23日、電気ケーブルを引っ張る作業中に水たまりに浸かった作業員3人が被ばくし、1、2、3号機の作業員の被ばく量は、これまでに最大で1人当たり10ミリシーベルトを超えるなどしたとみられる。

4号機は、燃料プールの冷却に使う水の配管が高いことが、作業員の被ばく量の分析も続けている。

分析機器が高いと復旧作業に時間がかかるなどの影響が出ている。

放水口付近の海水からは、1号機で通常の1000倍、2号機で1250倍、3号機で100倍のヨウ素131が検出された。

東電は26日午後、3号機の原子炉格納容器の圧力が、通常の1万倍の水蒸気が発生するレベルに上がったとみられ、「爆発の可能性がある」と発表。26日午前5時ごろ、3号機の圧力が通常の1万倍に